

# 2021年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園中学校・高等学校】

## 1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

## 2 中期方針・中期行動計画

### 1 ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する

(A)生徒・教職員・保護者がAPのメッセージに接する機会を増やし、カトリックの価値観の浸透を図る

### 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する

(A)不安な現状を的確に受け止め、臨機応変、望ましい対策を講じる

### 3 創立70周年(2022年度)における学園の将来像を描く

(A)従来の教育活動を根本的に見直して教育体制を刷新し、それを通じて新たな学校像を確立する

(B)高校生徒募集に全面的に注力し、費用対効果に最大限留意しながら広報活動の取捨選択を進める

(C)高校教育刷新のために必要な人員配置を着実・果敢に進める

(D)学園全体としての施設・設備有効利用という方針のもと、高校教育刷新のために必要な条件の充足を模索する

## 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

7. 自己評価アンケート結果と分析	1. 学校関係者評価委員会からの意見
<p>＜評価が相対的に高かった項目＞</p> <p>○緊急時の適切な情報伝達 ○施設設備の行き届いた清掃 ○個人情報の適切な取扱い ○建学の精神・教育理念への共感 ○教職員の気持ち良い挨拶 ○子供をこの学校に通わせて満足 ○施設設備の行き届いた安全管理 ○校風に基づく生活指導 ○保護者の相談への適切な対応 ○學習環境面における施設設備の機能 (すべて満足度87%以上)</p>	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2021年度学校評価に関する検討は2022年3月10日(木)に行われた。</p> <p>＜意見まとめ＞</p> <p>○学校の教育理念が保護者によく理解されており、生徒もまた校風に沿った礼儀、マナー、生活習慣を身につけていることで保護者の満足度が高いことがアンケート結果から伺える。一方、小学校に比べ進路の重要度が大きくなるにもかかわらず、それに対する設問が少ないようを感じられるのが気になる。</p> <p>○ほしじみは非常に興味深い取組だと感じる。今後も高い志を持ち、教育活動を進めていただきたい。</p> <p>○中3で「[5]とても満足」の割合が低い項目が散見されるが、この学年は中1の終わり頃からコロナ禍になり、行事の中止や休校などへの不満・不安があるのではないか。全体的には[5][4]の割合が高く充実した教育活動をされていると感じる。</p> <p>○在籍生徒の雰囲気が良く、挨拶もよくなされている。その活動を他校種へアピールし、また他校種との交流が増えることを期待したい。</p> <p>○少人数クラスでひとりひとりにしっかりと目を向けられており、小さな変化でも気づいてもらえ、保護者からの相談もしやすい点が評価できる。</p> <p>○中高生は将来への希望と不安が交差する時期であるので、OG達を招き様々な経験や考え方を聞く機会を設けてはどうか。</p> <p>○丁寧かつのびのびとした教育環境が整えられている。</p>
<p>＜評価が相対的に低かった項目＞</p> <p>○カリキュラムの充実度 ○家庭学習の十分さ ○地域との連携 ○小学校との活動の連携</p>	

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

※満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

中期的目標	中期行動計画	2021年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(カッコ数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△(課題あり)/×(不能)
1 ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する	(A)生徒・教職員・保護者がAPのメッセージに接する機会を増やし、カトリックの価値観の浸透を図る	(1)生徒が日々の学校生活の中で「アンスンツア」の喜びを実感することができる教育環境を整える。	建学の精神のよりよい理解	学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。(3) →満足度87.4%	(○)APである校長が、様々な機会を利用して積極的に建学の精神、カトリックの価値観を発信し、啓発に努めた。
		(2)学校行事を通して「ファッショ・イオ」の積極的精神を高めることができる教育機会を設ける。	生徒の積極性の育成	保護者として、建学の精神および教育理念に共感できる。(2) →満足度91.2%	(△)コロナ禍で多くの行事が中止となった。体育祭やオープンスクールなどにおいて「ファッショ・イオ」の例が見られたが、全体的にその精神が高まっているとは言えない。
		(3)学校外の生活においても、生徒たちが「アモーレ・ボレッツア」の実践を心がけるよう教導する。	愛を育む人格の育成	学校は、保護者に対して建学の精神および教育理念の説明をわかりやすく行っている。(1) →満足度84.9%	(○)講演会や総合学習の機会を活かして災害やミャンマー問題についての学びを深め、他者を思いやる心を一層育て、生徒らによる支援活動を継続的に実施した(報道もされた)。
2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底	(A)不安な現状を的確に受け止め、臨機応変、望ましい対策を講じる	(1)ミマモルメを欠席・遅刻連絡のために新たに利用する。また、感染症対策の機敏な連絡のためにも積極的に活用する。	生徒の安全確認の徹底	学校は、保護者に対して緊急時(地震・台風等)ミマモルメなどを通じて情報を適切に伝えている。(27) →満足度89.5%	(○)ミマモルメや配布プリントを通じての情報提供を頻繁に行うとともに、丁寧な保護者対応に努め、保護者の一層の理解を得て、より安全で健全な生活環境を作っていくことができた。
		(2)生徒の心の状態を教員集団として多角的に観察し、機敏で的確な対応を行う。	教員のアシスタンツアの向上	学校は、子どもの心身の健康に関するカウンセリングの体制を整備している。(33) →満足度75.9%	(△)年間を通じて生徒への手厚い心理的サポートに努めたが、生徒らの行動の変化を生み出すには至っていない
		(3)共同生活における公共心と、園児・児童への慈愛の心を育てる。	共助の心の育成	中学校・高等学校は、小学校と連携した活動を行っている。(36) →満足度53.2%	(△)中高生が幼稚園児・小学生をサポートする機会が少なく、共助の心の高まりは不十分である。
3 創立70周年(2022年度)における学園の将来像を描く	(A)従来の教育活動を根本的に見直して教育体制を刷新し、それを通じて新たな学校像を確立する	(1)新たなカリキュラム・学校行事・教育メソッドを確定し、2022年度からの実施の準備を整える。	新たな学校教育の創造	学校は、教育目標(および指導方針=シラバス)に沿った教育を行っている。(6) →満足度76.7%	(△)高校教育刷新のための枠組みを作成したが、行動計画の細部を確定するには至っていない。
		(2)「学びの森」の多様化・柔軟化や、成績評価方法の改定などを学校内外に告知し、教員・生徒双方の意識変革を進める。	城星の認知度の向上	学校は、保護者に対して教育目標(および指導方針=シラバス)の説明をわかりやすく行っている。(5) →満足度76.1%	(△)Instagramの活用やHPのリメイクを通じて訴求力向上に努めたが、その効果は限定的で、なかなか認知度をあげるまでには至らなかった。

中期的目標	中期行動計画	2021年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(カッコ数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△(課題あり)/×(不能)
3 創立70周年(2022年度)における学園の将来像を描く	(B)高校生徒募集に全面的に注力し、費用対効果に最大限留意しながら広報活動の取捨選択を進める	(1)2022年度からの高校教育刷新を印象づける斬新な学校案内を作成し、高校入試において専願者50名、入学者75名を確保する。	新ブランドの創造	(数値目標あり)	(△)数値目標未達。定数を満たす受験生の獲得に至らなかつた。
		(2)SNS等の活用を通じて中高サイトへのアクセス数を増やすとともに、オープンスクール・学校説明会参加者数250名を達成する。	募集活動の見直し	(数値目標あり)	(△)数値目標未達。今年度は新しさの定着を図りきれずに、様々な面で急ごしらえの観があつた。
	(C)高校教育刷新のために必要な人員配置を着実・果敢に進める	(1)高校教育刷新における専任教諭・常勤講師・非常勤講師それぞれの役割分担を明確化する。	マンパワーの効率的活用	教員間での連携が十分に図られている。 (17) →満足度78.7%	(△)専任教諭を中心とする職務分掌を超えた協力は、部分的なものに留まっている。
		(2)クラブ活動の最適化、高大連携・産学協同による外部リソース活用などを通じて、専任教諭・常勤講師が正課に注力しやすい環境をつくる。	教育活動の多様化	学校のクラブ活動は、学業その他の活動とのバランスを含め適正に行われている。 (30) →満足度71.1%	(△)高大連携による外部リソース活用は進展した。クラブ活動は参加者数が低迷傾向で、適切な指導体制は未確立であった。
(D)学園全体としての施設・設備有効利用という方針のもと、高校教育刷新のために必要な条件の充足を模索する		(1)iPad, Chromebook、ICT関連機器の活用を進め、教育の個別最適化を通じて生徒の学力向上を図る。	新たな学習ツールの活用	学校の各種教材の活用について満足している。 (9) →満足度73.5%	(△)生徒はiPadやChromebookを日常的に使いこなしているが、個別最適化のための活用については工夫の余地が大きい。
		(2)改修された図書室、改修予定の会議室(多目的室)を、「特別教室」等として積極的に活用する。	自学自習力の向上	学校の施設・設備は、学習環境の面で十分な機能を備えている。 (29) →満足度87.5%	(○)図書室に加え、ドン・ボスコ・ルームが学習活動だけでなく広報活動のためにも有効に利用されている。